

平成30年度展覧会スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会期	4/1~22	4/28~6/3	展示替え・館内くん蒸作業のため休館(6/4~6/15)	6/16~7/29	8/4~9/17	9/22~10/28	11/3~1/14 (前期11/3~12/2、後期12/5~1/14)	1/19~3/3	3/5~31			
第1展示室	第一回所蔵品展 秋野不矩 美の殿堂Ⅰ 日本画家 秋野不矩	特別展 絵本にみる日本画		第二回所蔵品展 秋野不矩 美の殿堂Ⅱ 絵本と物語の世界	特別展 藤森照信展	第三回所蔵品展 秋野不矩 美の殿堂Ⅲ インドの街並みを望む	特別展 秋野不矩展	第四回所蔵品展 秋野不矩 美の殿堂Ⅳ 制作の現場から 人々と神々の営み	第五回所蔵品展 秋野不矩 美の殿堂Ⅴ 制作の現場から 世界の風景を訪ねる			
第2展示室												
企画展示室								年末年始休館 (12/25~1/3)				

(注)スケジュールは都合により変更する場合があります。

市民ギャラリーのご利用を

秋野不矩美術館2階の企画展示室は、美術館が特別展等で使用する期間を除き、皆さんの芸術活動の発表の場(市民ギャラリー)として利用できます。使用料金は、1日当り6,480円(入場料を徴収する場合は19,440円)です。どうぞご利用ください。

◎平成30年度の利用予定は次のとおりです。(平成30年1月現在。展覧会名称は予定。)
利用申込みは随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。



市民ギャラリー会場

- 4月10日(火)~4月15日(日) 第2回矢野会作品展(絵画・手工芸・書・写真)
- 4月17日(火)~4月22日(日) 現代作家美術展(絵画・彫刻・版画)
- 6月26日(火)~7月1日(日) パレットクラブ展(絵画)
- 7月3日(火)~7月8日(日) 触れ合いと楽しみの書展(書)
- 9月26日(水)~9月30日(日) 月に詩えば絵描きも踊る(絵画・詩・舞踊)
- 10月2日(火)~10月8日(月) 孔雀会展(日本画)
- 10月10日(水)~10月14日(日) グループ展 三彩創展(絵画)
- 10月16日(火)~10月21日(日) 天竜デッサンクラブ展(絵画)

※平成31年4月からの利用申込みは、平成31年1月6日(日)午前10時から受付開始します。受付初日午前10時の時点で利用希望日が重複した場合、抽選により決定します。(利用申込み開始日以降は、先着順で随時受け付けます。)
※展示予定は、予告なく変更になる場合があります。ご了承ください。

美術館友の会のご案内

浜松市美術館友の会は、秋野不矩美術館と浜松市美術館共通の友の会です。美術という共通の趣味を通じての会員間の交流や、両美術館及び県内提携美術館の入館料割引、美術鑑賞旅行などさまざまな特典があります。ぜひご入会ください。

申込書は秋野不矩美術館と浜松市美術館にあります。

◎会費年額 4,000円(大人・正会員)

※このほか、家族会員、大学・専門学校生等会員、高校生会員などの区分があります。詳しくは、浜松市秋野不矩美術館または浜松市美術館までお問い合わせください。

◎提携美術館 静岡県立美術館、
佐野美術館(三島市)、駿府博物館(静岡市)、
掛川市二の丸美術館、平野美術館(浜松市)

美術館ボランティアのご案内

秋野不矩美術館では、館の活動の紹介や周辺地域の案内、館内外の美化・環境整備など、美術館運営のお手伝いをしていただくボランティアを募集しています。文化勲章受章の栄誉に輝いた天竜地域出身の画家・秋野不矩画伯の芸術を広める美術館の活動に参加してみませんか?

詳しくは、秋野不矩美術館までお問合せください。

美術館
だより

不矩

No.15

秋野不矩美術館だより
発行日
平成30年3月31日
編集・発行
浜松市秋野不矩美術館



秋野不矩美術館 開館20周年記念
秋野不矩 生誕110周年記念 特別展

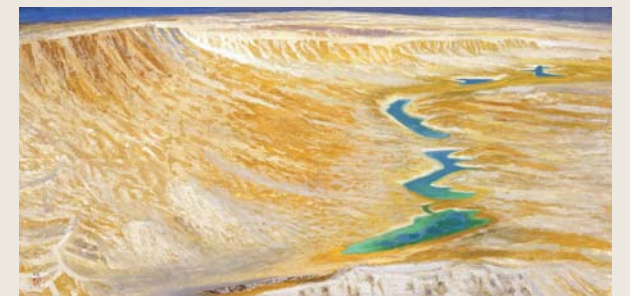
秋野不矩 展

平成30年11月3日(土)~平成31年1月14日(月)

前期:11月3日(土)~12月2日(日)、後期:12月5日(水)~1月14日(月)



《朝露》
1933年
耕三寺博物館所蔵



《カミの泉II》1976年
京都国立近代美術館所蔵



《オリッサの寺院》1998年 浜松市秋野不矩美術館所蔵

秋野不矩美術館開館20周年の節目の年を飾る特別展として、秋野不矩(あきの ふく、1908-2001)の生誕110周年記念展を開催します。

秋野不矩は、静岡県磐田郡二俣町(現・浜松市天竜区二俣町)に生まれ、19歳で画家の道を志し、始め千葉の石井林響、次いで京都の西山翠嶂に師事しました。西山の画塾・青甲社にて研鑽を積みながら、官設展覧会で入選・受賞を重ねて着実に地歩を固めますが、戦後、官展や画壇における閉鎖性に憂いを覚え、1948(昭和23)年、新しい日本絵画の創造を掲げる在野の日本画団体・創造美術(現・創画会)の結成に参加し、造形的な人物表現に意欲的に取り組みました。1962(昭和37)年、54歳でインドへ滞在して以降は、インドの情景を力強く描き上げるようになり、雄渾な筆致とみずみずしい色彩によって独自の画風を築き上げました。亡くなる最後まで画家として貫いた93年の生涯は、1999(平成11)年の文化勲章受章など数々の栄誉で彩られ、没後10数年が経った今もなお、活力に満ちた輝きを放っています。

本展では、画家の生誕110年に臨んで、画業初期から晩年に至るまでの作品を通貫して展示し、自己の芸術を追い求めて邁進した秋野不矩の創作活動の道筋を振り返ります。

秋野不矩美術館 開館20周年記念 特別展

絵本にみる日本画

平成30年4月28日(土)～6月3日(日)

今日、絵本は人々に広く愛され、様々な物語が世代を超えて読み継がれています。中でも、話のあらずじに沿った挿絵は読者の想像力を高めるとともに、豊かな色彩や特徴ある表現を伴って、ストーリーに温かさや力強さを与えています。こうした絵本の原画が、専門の絵本作家だけでなく、日本画制作を主とする画家たちによっても手掛けられていることは、実はあまり知られていません。

本展では、日本画家による絵本の仕事にスポットを当てて紹介します。絵本原画において、そこに見られる日本画の要素や技法、また、絵本としての特性を踏まえた独特の表現などをご覧いただきながら、同時に本制作の日本画作品を展示し、双方に通底する創意や、または、本制作の時とは異なる表現を、比較しながら鑑賞する機会ともいたします。



秋野不矩《いっすんぼうし》
1965年 浜松市秋野不矩美術館所蔵



竹山博《ちいさなきかんしゃ》
1956年 宮城県美術館所蔵



福井江太郎《駝鳥》
2015年 個人蔵

秋野不矩美術館 開館20周年記念 特別展

藤森照信 展

平成30年8月4日(土)～9月17日(月)

秋野不矩美術館開館20周年を記念し、当館を始め多数の建築設計を手掛けている建築家・建築史家、藤森照信(ふじもり てるのぶ、1946-)の仕事を紹介する特別展を開催します。

長野県諏訪郡宮川村(現・茅野市)に生まれ、建築史家として、近代建築史・都市史の研究や建築探偵団・路上観察学会などの活動を展開する傍ら、1991(平成3)年、44歳の時に故郷・茅野市の神長官守矢史料館の設計で建築家としての活動を始めました。以降、自然素材を随所に取り入れた独創的な手法によって、建築の既成概念を覆す作品を次々と生み出し、現在も世界各地で公共建築や住宅・茶室等の設計を数多く手掛けています。藤森の仕事は、国内外において、学術面のみならず芸術面に関しても高く評価されています。

今回、当館設計者である藤森照信が重ねてきた建築家としての成果を、写真パネルや模型・スケッチ・建築素材見本等によって紹介し、藤森建築の概況を展覧します。また、秋野不矩作品の鑑賞に適した空間として考案された当館展示室で、開館に際して制作・寄贈を受けた《オリッサの寺院》など秋野不矩の代表作をご覧いただくとともに、館外では、本展に合わせて新たに設計される新作茶室を、地元の天竜産木材を用いて制作・展示します。

《浜松市
秋野不矩美術館》
1998年



右)《高過庵》
2004年
左)《低過庵》
2017年

所蔵品展のご案内

所蔵品展では、各回のテーマに沿って秋野不矩の画業を紹介いたします。また、画業後半期のライフワークであったインドを描いた作品を、併せて展示します。

第1回 所蔵品展

秋野不矩 美の殿堂Ⅰ～日本画家 秋野不矩～ 4月1日(日)～4月22日(日)

今年度、秋野不矩美術館は、1998(平成10)年の開館から20周年を迎えます。これまで、地元・天竜二俣出身で文化勲章受章の日本画家・秋野不矩を重ねてきた創作活動の成果を、所蔵品展や企画展・特別展において様々な視点から紹介してきました。記念年度の最初を飾る本展では、伝統的な日本画技法に立脚した《姉妹》から、《坐す》など西洋絵画に見られる表現を取り入れた人物画の意欲作を経て、秋野の代名詞であるインドを題材とした作品を、渡印直後の《平原》から晩年の《ガンガー》まで幅広く網羅し、日本画家・秋野不矩の個性的な画業の全貌を、各時期の代表的な作風を示す所蔵品の展示によって振り返ります。



《姉妹》1946年



《ガンガー》1999年

第2回 所蔵品展

秋野不矩 美の殿堂Ⅱ～絵本と物語の世界～ 6月16日(土)～7月29日(日)

秋野不矩は一時期、日本画の本制作とともに絵本挿絵の制作にも取り組んでおり、躍動感あふれる表現や慈しみを込めた場面描写の挿絵によって、絵本の物語に印象的な表情を与える仕事を行ってきました。また、本制作でも、対象の本質とともにモチーフの有する物語性を捉えて描き出した作品に、一つの特徴を見出すことができます。本展では、当館が収蔵または管理する秋野不矩の絵本原画全4タイトルを、絵本不掲載の原画も含めて全点展示するとともに、絵本原画と対比される本制作作品、その中でも特に、描かれた場所や場面・人物の物語に意識が注がれた作品を中心に展示します。



《いっすんぼうし》1965年

第3回 所蔵品展

秋野不矩 美の殿堂Ⅲ～インドの街並みを望む～ 9月22日(土)～10月28日(日)

1962(昭和37)年のインド初渡航以降、秋野不矩は、計14回に渡るインド訪問のほか、アジア・アフリカの各国を旅行し、現地で見聞した風景などを題材に制作を行いました。海外での秋野の興味が、多くの旅行者が目に留めるような著名な場所よりも、現地の人々の生活に根差した所にあったことは、今日に多数残されている民家や寺院などを描いた作品群からも窺い知ることができます。本展では、《砂漠の街》、《民家(ブバネシュワールールドタウンA)》といった、秋野が実際に現地に踏み分け取材した、インドを始めとする海外の街並みや建物・遺構等を描いた作品を中心に展示します。



《砂漠の街》1982年

第4回 所蔵品展

秋野不矩 美の殿堂Ⅳ ～制作の現場から ～人々と神々の営み～ 平成31年1月19日(土)～3月3日(日)



《行者シヴァ》1978年

※掲載の2点はいずれも本画です。

第5回 所蔵品展

秋野不矩 美の殿堂Ⅴ ～制作の現場から ～世界の風景を訪ねて～ 平成31年3月5日(火)～3月31日(日)

当館には、秋野不矩の日本画作品(本画)のほか、素描・下図も多数収蔵されています。本制作につながる土台としての下図や、再構成を行う前段階の緻密な写生が見られるもの、モチーフの細部を様々な角度から写し取った下書きまで、多彩な顔ぶれの作品を所蔵しています。今回、秋野不矩の制作の一端をより深くご覧いただけるよう、当館所蔵の本画とともに、制作の基礎となった素描・下図を幅広く紹介します。

また、秋野不矩生誕110周年を記念して開催する「秋野不矩 展」の巡回先である田辺市立美術館(和歌山県)のコレクションから、田辺市ゆかりの野長瀬晩花・稗田一穂を始めとする、新しい日本画の創造に挑んだ近現代の日本画家たちの作品を特別出品します。



《海辺のコテージ》1984年